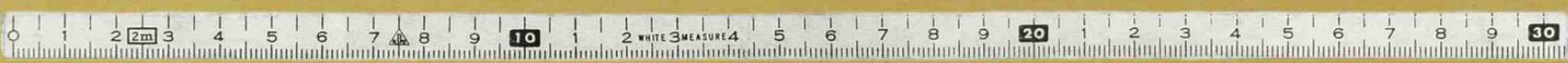
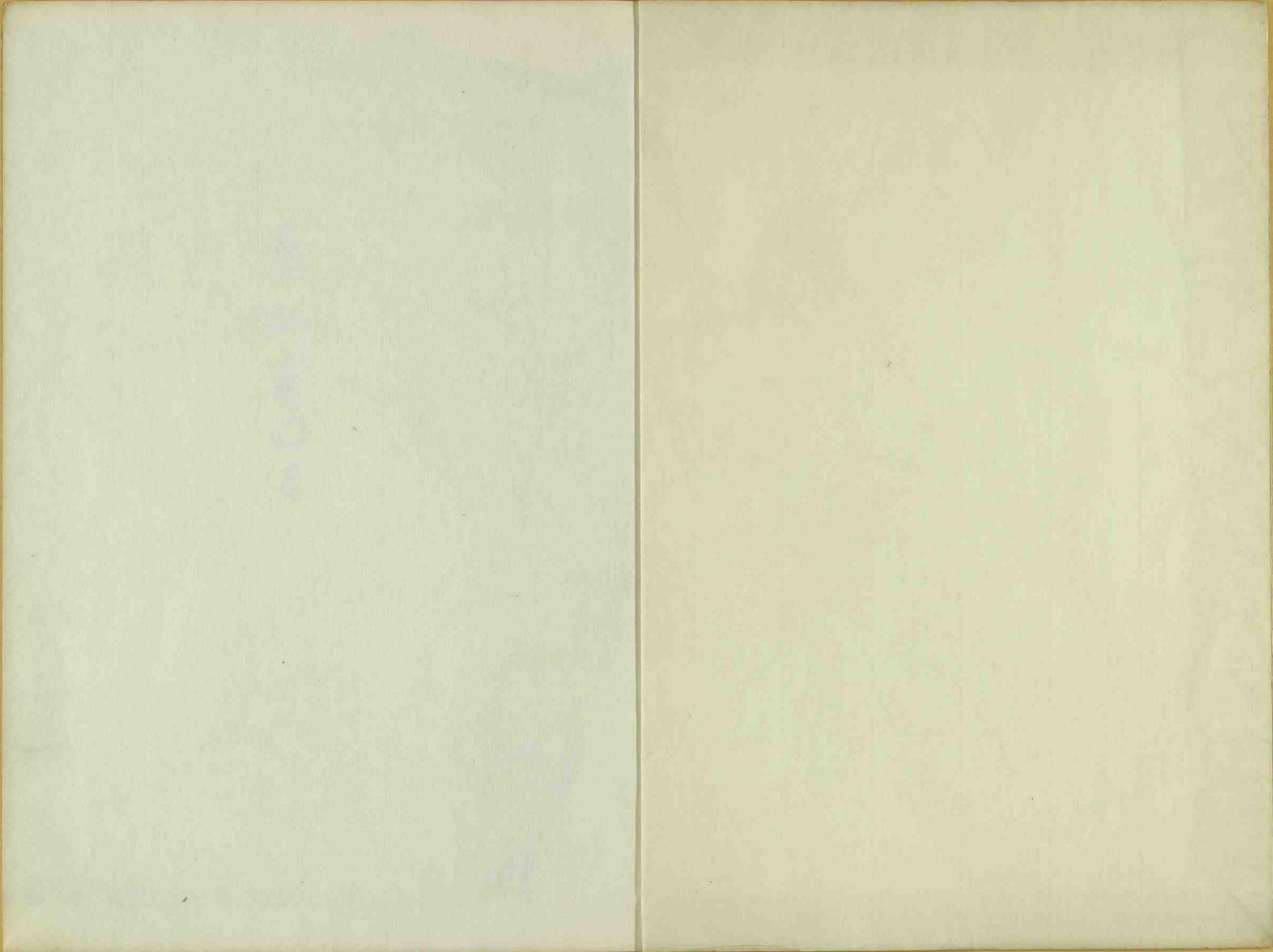


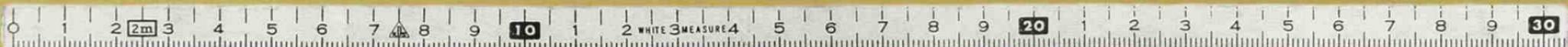
系割箸由緒

文化六年九月五日所系割箸宿元

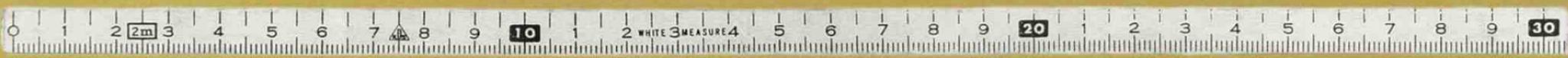




長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵



系判符由緒



系列符由諸

一 系列符之做者慶長年中 沖定は 以下
主沖定は 収束を 外玉は 在職は 高人共 日本
船仕之 重銀積入 船 存分は 亦玉は 渡海仕
代物買取 市帆賣得仕 然高海河人 年
沖停止 鉄炮共 為 潰散 第一 沖制禁
那 獲之 門 進之 徳 是 共 付 左 忌

大御所様奉申上之御頂上御度は為 仰有様

御取進仕沙汰を御由緒有様 仰有様

頂戴之上渡海御取進仕上 仰有様御取進仕

之御今以奉不替之慶長九年御取進仕御取進仕

御取進仕御取進仕 下置之御取進仕御取進仕

御取進仕 仰有様御取進仕御取進仕御取進仕

御取進仕御取進仕御取進仕 仰有様

一慶長年中御取進仕御取進仕御取進仕御取進仕

御取進仕御取進仕御取進仕御取進仕御取進仕

御取進仕御取進仕御取進仕御取進仕御取進仕

御取進仕御取進仕御取進仕御取進仕御取進仕

大権現様御取進仕御取進仕御取進仕御取進仕

御取進仕御取進仕御取進仕御取進仕御取進仕

御取進仕御取進仕御取進仕御取進仕御取進仕

上意と買取者と大分懸隔仕るは者無利分
ありぬ取返してと去年に買取るは月買取は為
作付は為し

上意おのつゝ御別符出は是と奉りぬ其務は
年、は者共買取下は然るは長崎表は法固り
入は者多し御高入は代物に取難おはと是也
是も高買取は取勤勿海へ未許由供り貴

江為 白出慶長九原年六月三日於伏見
御城始白糸割符
御奉書奉頂戴は寫左書記に

是取看取し可是是年寄共
糸の縁しとくは糸の縁高入
長崎に下入は糸の取取は
糸の中は取取高買取は者也



慶長九年六月廿日
本多上野介主判
板倉伊賀守主判

右御奉書云云生駒守本他奉書及加須守云云

津定系

京 題系百丸

堺 題系百廿拾丸

江戸 題系百丸

大坂 題系百廿拾丸

長崎 題系百丸

但宜印云云奉書生駒守本他奉書及加須守云云
此三本板加入書作付書

五ヶ所
合口百七拾丸 但此丸五拾斤入
二斤掛同百七拾丸

右に 下奥題系上御本唐江茶泡云云

持渡り向成上御本下沙頭系別付云云 下奥津平

沙平云云

一 天川取座取白系云云 小小黄系云云 朴系系所云云

沙後編編云云 系減物分悉別付方云云 下奥配分

江守市大判符云云 林云云 永九年八月分減物云云

江戸に在る處に思長行交易根之刻符方候付本
御奉書に在年等共 沖定共 成下毎年在り
是に和若居候事、七人の船に乘入り沖停止
之行物取扱積行見布、之高貴候事 作付候
沖檢使、下之兩年等共之法高人、之交易に
思長交易當時とは法在り候事、之の
毎年等共、其の代に思長行法に據候

東陽物兼種並相問候者共思長連在初候
且又中興と云ふ系元直候取派、以て長崎
入口之法高人、下入りの札に在思長取派
沖役所、沖役所、之の札に在思長取派
長崎に在り、之の法也、入札高貴候事 作付候
一、行業凡人、平戸、長崎、入津、之の札に在思長取派

一、市に在り、沖刻符、之の札に在思長取派

但、大層元、本年、沖浦、沖用、
沖奉行、之の札、沖刻符、之の札、
當時、古山、

一往古長國渡海 冲米印頂戴之長後冲米

并冲奉公之示臨之冲傳依種之冲度海

長多難奉書記之冲之冲一統冲傳之長

冲陣之節八幡之冲之長官之左衝極冲

之

大權現様御目通之冲之長官之難有奉蒙

上意冲陣場之冲之長官之運送之冲用或之

徘徊仕賣之冲之長官之運送之冲之御之長官
儀教并冲入用之冲之長官之古之長官之長官
鴻原一横冲成敗之冲之長官 冲奉行所之長官
作甘割符之者之長官之長官之玉系楠竹之長官
冲馬之御草之冲陣場之冲之長官之冲之長官
落城之長官 冲上使松平伊豆守極之長官之長官
長冲之長官之長官之長官之長官之長官

東洋意は成下丸は江戸市中海浜に居る
江作渡り又正保四年南蠻来船初長崎
入海は神話に船幅は有く度事舟通る
海は儼大小船數多西集り是系割符者
お働幅三拾百渡走里は海地同船幅御座
一元和年中

右徳院様御代系割符は儼和に在る事有

松平意は長極名長谷川左衛門極は
成は處於伏見
御城

大御所様御前にお為
下直り系割符は和に在る事有
清定書は清恒書も法極行は是也
長上は右清吟味は為成は備目之
業者は松浦内藏極は成は備目之
業者は松浦内藏極は成は備目之



國台布人臣應奉御札是為 出系刺符依
此在續法為 成下

一 日光山

御宮門造營之節 此勸請石城浦之津下向之砌
系刺符方之奉願為是加日光進供奉仕根奉為是派
此召連無津奉刺符者此即野修者仕之後有之
津方極之不前系刺符者共之中之津方是也

慶安元子年津之拾之向 津尾付

御宮二王御門前左右唐烟津燈籠二柱奉獻之

御遷座進奉在法今以江戸津表津年願拜禮在

以後每年正月中日光

御宮拜奉仕先例通 御社内於津石之間 御紋付

津古卷之 御神酒頂戴仕楯又 御札御神飯

又古初分頂戴下山法尤在津古卷之而持仕

江戸市表の成東殿山

御宮 御霊屋金子献上拜奉五勤毎年 尚礼

御神酒正月月上旬之主存七頂戴仕合都上名南様与

金地院智恩院養法院増白入日宗寺存御

建國寺天王寺寿念寺長壽寺名女祥寺

御宮奉拜奉

一 元禄年中、現系判符は為 仰付

系 現系百丸

増 現系百丸

江戸 現系百丸

大坂 現系五拾丸

長崎 現系百拾丸

合系百丸系判符は是系高也

但し判符は方丈に

右現系は儀去持渡系高多法座八系是地也

系五百九... 下直貞唐
河津院系持渡母... 作渡於生將立山
下直貞... 作渡於生將立山
河津所... 十二月... 系... 年... 共
名... 作渡...

右... 節... 作渡...

未子年... 作... 系...

系... 丁... 作... 系...

由... 系... 作... 系...

横... 通... 系... 作... 系...

全... 系... 作... 系...

一... 古... 系...

御代始... 系... 作... 系...

御代... 系... 作... 系...



寺社淨奉行極目竹渡雖有奉存

獻上左通

御本丸様

白糸之拾把宛

合百五拾把

又五分

大御所様

右同新

大綱言様

右同新

御簾中様

白糸之拾把宛

合百把

又五分

并
淨老中極始淨役人極方其御進上御事上頭迄取物

右古例通獻上物仕天明七年正月奉給儀々々上

又古一同式及為淨統儀々例通淨時服儀々

御城目下並難有頂戴仕其後淨時儀々下並難

寺社淨奉行極目竹渡

一日光山

御宮に奉獻皇唐洞淨燈籠二基實爲二箇并

坂田お摸書極目竹渡御在御四月申候儀々竹付

則其質以戸系利者昔年考の及之代目是也

一色因防守極指以下世有極無深往奉書極日光

一色因防守極指以下世有極無深往奉書極日光

一色因防守極指以下世有極無深往奉書極日光

一色因防守極指以下世有極無深往奉書極日光

御宮跡系仕 御神酒頂戴之下山仕

一色因防守極指以下世有極無深往奉書極日光

相輪塔中再是場而端籠之内

一色因防守極指以下世有極無深往奉書極日光

一 昭和二年乙酉四月

大権現様御百五拾回

御神忌付日光山

御宮に下所系別符方年字共之而之分去人衆仕

御紋付銀御意祝之道奉獻并系仕 御神酒

奉頂戴以_レ至_レ後_レ以_レ戶_レ御_レ表_レ於

御城寺社_レ淨奉行酒井元輝寺_レ極_レ淨_レ達_レ令_レ般

日光山_レ禪_レ香_レ在_レ初_レ骨_レ淨_レ時_レ暇_レ二_レ元_レ江_レ為

下_レ意_レ從_レ江_レ 仰_レ波_レ難_レ有_レ奉_レ頂_レ戴_レ以

一_レ各_レ永_レ六_レ申_レ年_レ日_レ光

御社_レ奉_レ後

御宮_レ淨_レ儀_レ覆_レ江_レ 仰_レ出_レ骨_レ先_レ年_レ奉_レ獻_レ以_レ以

唐_レ洞_レ淨_レ元_レ龜_レ修_レ後_レ且 御_レ後_レ附_レ銀_レ淨_レ院_レ同_レ淨_レ蓋

同_レ淨_レ蓋_レ新_レ洞_レ仕_レ在_レ獻_レ以_レ新_レ洞_レ常_レ大_レ樂_レ院_レ在_レ當_レ方

教_レ城_レ院_レ在_レ沙_レ治_レ有_レ在_レ骨_レ永_レ八_レ三_レ年_レ月_レ淨_レ燈_レ籠

修_レ後_レ仕_レ銀_レ淨_レ院_レ同_レ淨_レ蓋_レ同_レ淨_レ蓋_レ先_レ規_レ之_レ面

在_レ仕_レ之_レ江_レ戶_レ系_レ別_レ管_レ方_レ年_レ骨_レ又_レ有_レ代_レ之_レ日_レ光_レ堂_レ山

獻_レ洞_レ仕

御_レ宮_レ禪_レ香 御_レ神_レ洞_レ頂_レ戴_レ仕_レ其_レ後_レ寺_レ社_レ淨_レ奉行_レ極

16
神嘗清神奉行極日光神奉行極市部中上

一 往古伏見

御城毎清神奉行極神禮奉申古例名 神一統後

江戸清表の不音系刻符言年奉申の分夫人宛

系上左の通獻上仕毎年正月二日奉神禮の

御本丸様 白綸子式拾卷宛 合百卷 只奉

西御丸様 右同断

大御所様 右同断

日光御明主様 大龜紋紗清

但大龜紋紗清後抄後等
志綿進上仕

并
神老中極始神役人極方大龜紋紗清進上仕

右稀禮相勤の後正月九日於

御城寺社神奉行極神逢神暇出為 下直の後

作渡先規神時暇出 下直の神創の神銀五枚宛

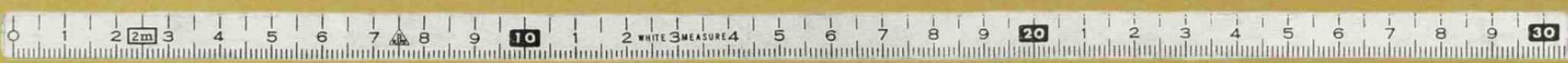
頂戴仕

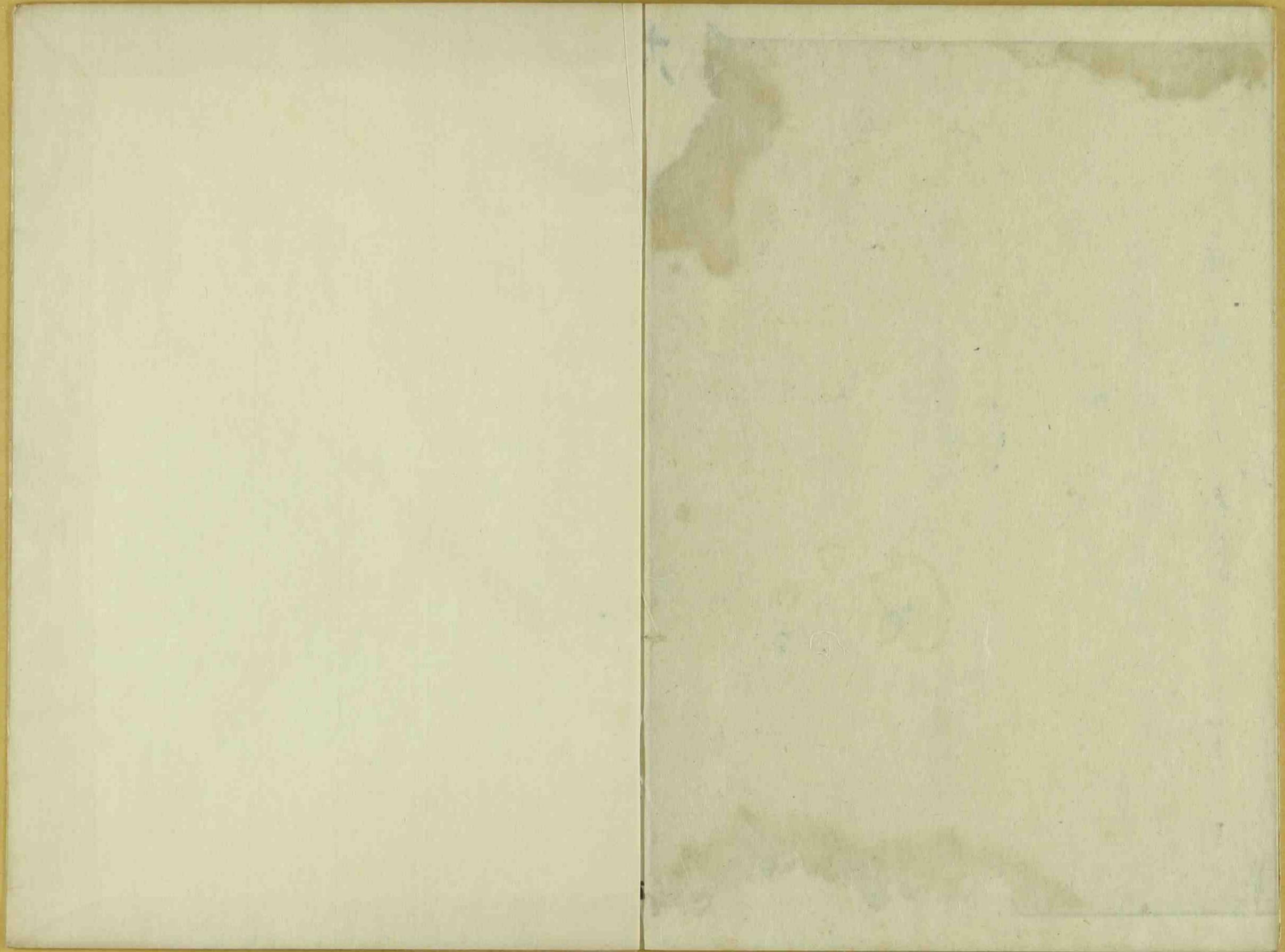
六

右ノ通奉蒙 冲高恩慶長年中分在續休
更加至極難有仕合奉存候以上

文化六巳年九月

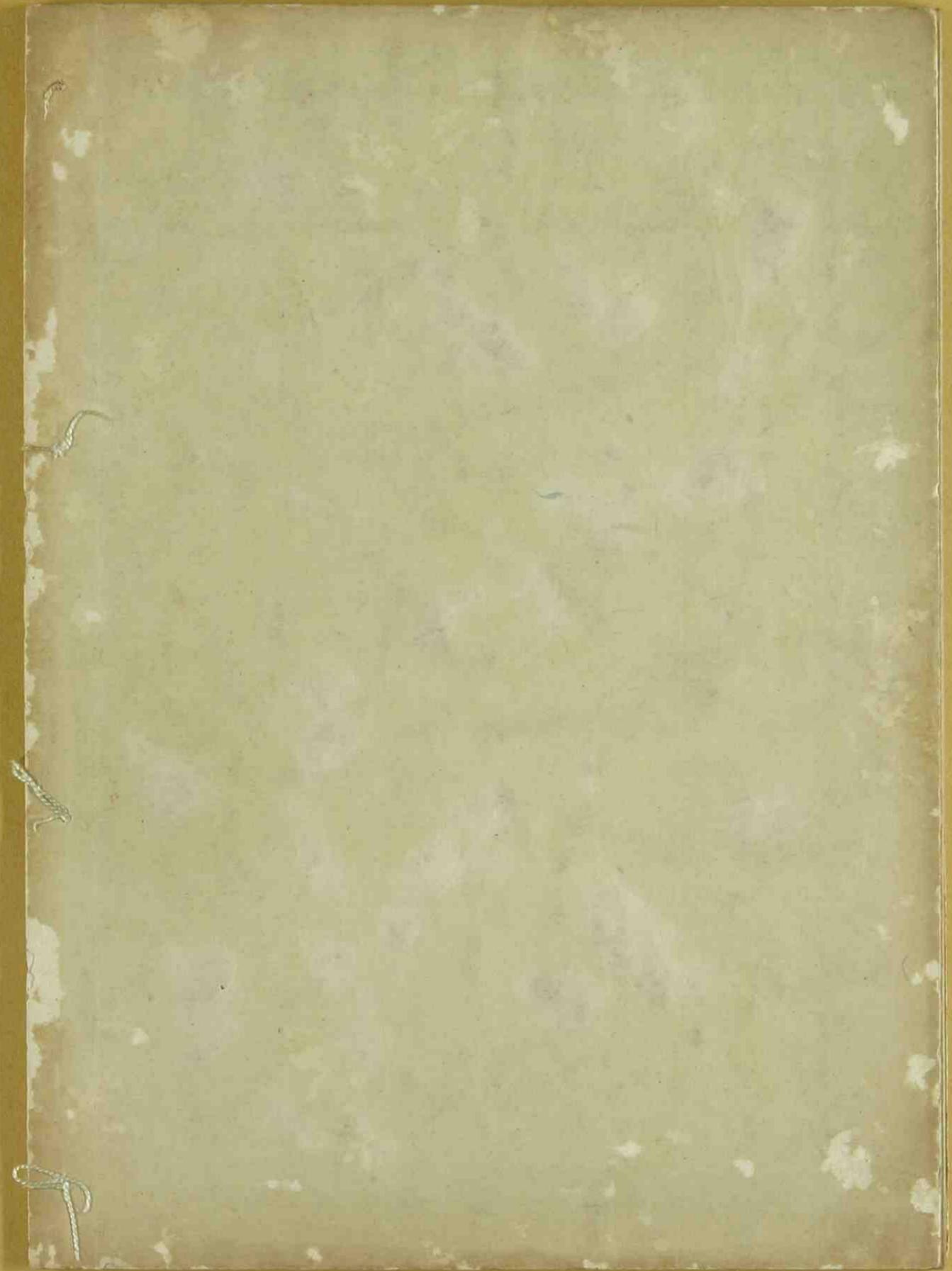
云所
系割符年寄





長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵





長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵

